

福岡教区 2019年の目標 「信じる喜びから伝える喜びへ」

11月に思う事



主任司祭 遠山満

11月と言えば、私達、教会の信者は、「死者の月」を連想するかと思いますが、日本社会では多くの方が、「七五三」を思い浮かべるのではないかと思います。七五三、それは、子供たちの健やかな成長を祈る儀式で、日本社会の習慣ですが、喜ばしい事に教会の中にも入ってきました。今年も、皆で七五三を祝いたいと思います。

子供の成長を皆で祈ることは、非常に良い事ですが、現実の社会はどうでしょうか。私が、しばしば耳にするのは、幼稚園や保育園の近隣の方々から寄せられる、「子供の声がうるさい」と言う苦情です。これでは、子供が健やかに育つ社会とは言えません。子供も安心して生まれて来る事ができません。何故なら、社会が子供の存在を喜んでいないからです。

社会が子供の存在を喜んでいない、その顕著な表れが、中絶の多さではないかと思います。私達は、社会の中で、えん罪や子供の虐待などのニュースを耳にすると、敏感に反応し、多くの方が同情を示し、時には支援の輪が広がったりします。けれども、生まれることなく亡くなっていく、この子どもたちに対しては、どうでしょうか。

私達は、自分の持ち物、大切な物を、誰かから力づくで奪われたなら、どのような気分でしょうか。間違いなく、酷く腹が立つと思います。力づくで奪われるもの、それが自分の命だったら、どうでしょうか。もっと腹が立つはずですが、それゆえ、中絶で亡くなった子供たちは、間違いなく腹を立てているはずですが、自分の両親に対して、また手術を担当した医師、及び看護師に対して。

死者の月にあたり、私達は、この子どもたちの事を特に思い出すように致しましょう。特に、私たちの周囲で、「これは赦せない」と思えるような出来事が起こる時、彼らの事を思い出しましょう。「赦せない」と感じる、その苦しみを、彼らの為に捧げましょう。その苦しみを捧げながら、彼らが、自分の両親、手術に携わった医師や看護師を赦せますようにと祈りましょう。そして、彼らが、神様の元で、永遠の安息に深く与る事ができますように、皆で祈ると共に、本当の意味で、子供を歓迎する社会を築いて参りましょう。

堅信式 10月13日

十 受堅おめでとうございます！！

13人の兄弟姉妹が受堅しました。



堅信式の始まりです。厳肅な雰囲気になりました



一人一人按手を受けました



笹丘ファミリア合唱団
「ブドウの木」が歌われました



上段：田原迫凛子、ベルナルド、栗原聡史、遠山神父、泉安美、難藤みくに、松本美月
下段：田原迫慶哉、井口肇、井口茂、崔神秘、桶田結愛、菅灯、藤村真衣【敬称略】

例えば、私たちの人生が私たちが操縦するボートのようなものである場合、私たちの信仰はオールであり、私たちの意志の力でボートとともに前進しようとしています。しかし、この人間の力は不十分です。ボートがより速く動くためには、別の神の力が必要です。

これが堅信の秘跡における神の恵みの強さです。まるでボートが帆と風の力で前進したかのようです。両方の力が必要です：人間の意志と神の恵み

今からこれらの2つの力により、はるかに速く前進します。

よろしくお祈りします。（受堅者 ベルナルド）

堅信を受けた皆が、これまで無事成長してきたことを神様に感謝します。成長した信者としてまわりの人を照らす光となりますように（受堅者の保護者）

「レジオマリエ」をご存じですか？

第3回

今回は、レジオマリエの目的、その精神と使徒職について「レジオマリエ手引書」より、紹介させていただきます。

2. 目的

レジオマリエの目的は、福音の宣教と会員の成聖です。福音の宣教とは、各信徒が自分の洗礼と堅信による使命に基づいて、小教区と協力してキリストの救いの希望と喜びを、すべての人々に伝えることです。

キリストとともにおられるマリアに取り次ぎを祈りながら、マリアの生き方にならって、謙遜に人々への奉仕に努めることです。(マリア様は、地上では私たちとおなじように生活しておられました。)

会員はしばしば秘跡に与り、個人的にまた共同で祈ることがすすめられます。

3. レジオマリエの精神と使徒職

レジオマリエの精神は神への信頼と従順です。マリアが「み旨のままに」と応え、生涯を神に委ねられた生き方そのものです。その精神は「マリア賛歌」(ルカ1:47~55)の中に見ることができます。

また、“神のみ旨を聴くこと”に向かう姿勢です。

レジオマリエの使徒職は、教会、地域、そして社会のさまざまなニーズに積極的に目を向け、関わっていきます。

次回は、レジオマリエの組織について書かせていただきます。

※前回紹介するのを忘れていましたが、「レジオマリエ」はラテン語の「LEGIO MARIAE」で、「LEGIO」は、「古代ローマの軍団」、「MARIAE」は、「マリアの」という意味です。やや物騒な印象を受けますが、「マリア様に取り次ぎを願いながらイエス様のために働く集団」といったような意味に捉えています。

神学院祭 11月4日

福岡カトリック神学院

士見よ、新しいことをわたしは行う(イザヤ 43:19)

曇りのち晴れ時々強風、
少しばかり肌寒い中での神学院祭になりました。



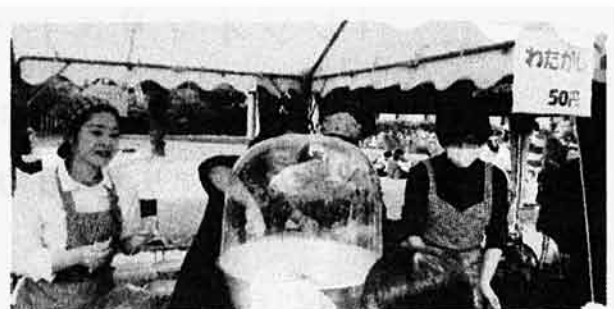
西田まさなり神学生
着ぐるみを着て子供
達とのゲームを盛り
上げていました



写真上:ろうそく作り、子供たちは
真剣に取り組んでいました



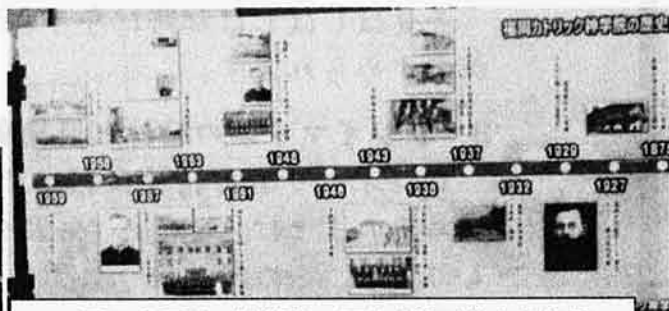
子供達が草スキーを楽しんでいました



笹丘のカレー、綿菓子も大好評!



飛び入りで青年のダンス! かつこいい!



2F 展示企画室 神学院の歴史が良く分かる年表
ビデオでは神学院生の生活を紹介していました



神学生がなぜかソフトバンクホークスのユニフォーム姿!
これはトークショーです
哲学科(一年生)は何を着てもいいのです...神学生が身近
に感じられました



教皇様の来日テーマ

“すべてのいのちを守るために”



カトリック笹丘教会の信徒の皆様へ

〈いのちを守る運動基金〉

2019年9月 皆様からいただいたメイちゃん募金箱にはたくさんの愛情と献金がつまっております。

日本カトリック女性団体連盟(日カ連)は『受精から自然死』に至るまでのかけがえのない命を一人の力は小さくてもみんなで連帯して守るために、「メイちゃん募金箱」を家庭に置いていただき、祈りと共に献金をお願いしています。

「産まれても 育ててもらえない いのち」「産みたくても安心して出産できない女性たち」「DVIに苦しむ男女」このような種々の問題で苦しむいのちに向き合い、支援をつづけています。

笹丘教会では毎年3月と9月にメイちゃん募金を集めて日カ連に届けています。

今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

感謝のうちに



日本カトリック女性団体連盟
福岡地区カトリック女性の会
カトリック笹丘教会 委員
川原圭子、喜多村由布子

避難訓練

火事だ！と避難を呼び掛けて全員が外に出るまで3分かかりました。

10月20日ミサ後に避難訓練を実施しました。いざという時に備えて問題点を解決していきます。火事の場合は、まずは119番通報。

住所は笹丘1丁目16-1

覚えておきましょう。（担当 防災）



喜びを伝えよう！！

ローマ教皇来日記念企画展 ボランティアの経験から

企画展が始まって3日目の10月21日にボランティアをさせて頂きました。月曜日で来場者は多くありませんでしたが、カトリックでない方から、色々な情報があってよかったといった感想もあり、様々な方にとって良い展示になっていると思います。私自身も意外と知らなかった事を知る事ができ、有難い機会でした。(M.M)



舞台劇「五島崩れ 椿の島のアヴェ・マリア」博多座公演

芥川賞作家森禮子氏の同名小説の舞台化
信徒の仲間が赤字覚悟で博多座公演にこぎつけました。

記

博多座（中洲川端）

12月13日(金) 昼の部 13時30分開演

夜の部 18時30分開演

全指定席 5000円 教会入り口のチラシをお取りください

編集後記

先日、福岡黙想の家で行われたある黙想会に参加した。息子たちが上智福岡でお世話になったご縁で続いている、何期にも渡る卒業生母たち及びその友人知人たちの集いである。長年に渡ってご指導いただいているイエズス会のS神父様は、この黙想会のために毎年東京や広島から駆けつけてくださっている。

このような黙想のときにいつも不思議に思うのは、お話の中で今の自分に一番必要な言葉をいただくことだ。それは自然の中に身をおいて、祈りに集中できるからかもしれない。今回も大切にしたいいくつかの言葉を持ち帰ることができた。S神父様によると、イエス様も本当に答えを必要とするときには、必ず山に登ったり荒野に身を置いたりして、御父や聖霊に祈り、対話し、相談してその声を聞こうとされたのだそうだ。

講話の合間には、秋晴れの下、鳥の声や風のそよぎを感じながら十字架の道行を歩いた。日常の忙しさから解き放たれることのできるこの場所が、来年いっぱいになくなってしまふのは残念でならない。何とかして心静かに祈る機会を持ち続けたいものだ。(S・A)